

学校法人 青山学院  
2024 年度 事業計画書



*Aoyama Gakuin since 1874*

## 目次

「青山学院・新経営宣言」～Be the Difference～	2
「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」～青山学院 150 年への挑戦～	3
学校法人青山学院 中長期計画（2020-2024）	4

### 各設置学校及び学院の事業計画

I. 国際戦略発展のための AOYAMA VISION 「4 Challenges」 及び基盤整備	5
1. 世界と未来を拓く教育	6
2. 世界をリードする研究	10
3. 世界が求める社会貢献	11
4. 世界に誇る知的インフラ及び基盤整備	12
II. 新経営宣言の実現	14
1. 万代基金の増強による財政基盤の充実・整備	14
III. その他の事業計画	14

## はじめに

---

2024 年 11 月、青山学院は創立 150 周年の節目を迎えます。10 年前の 2014 年には、「AOYAMA VISION」（2014-2024）を掲げ、150 周年への更なる飛躍に向けた歩みをスタートさせました。当時はまだ「サーバント・リーダー」という言葉があまり定着していませんでしたが、教職員研修や実践的な取組を通して、創立以来守り続けてきたキリスト教信仰に基づく教育が生み出す人物像こそ、「自分の使命を見出して進んで人と社会とに仕え、その生き方が導きとなる『サーバント・リーダー』」であることを教職員一人ひとりが認識し、ヴィジョンの実現を推し進めてきました。

そして、2017 年には「青山学院・新経営宣言」を発表し、経営スローガン「Be the Difference」を土台とする青山学院の経営戦略を示しました。万代基金設立等の施策を打ち出し、より良い教育・研究を実現する堅実な財政基盤の確立に取り組んできました。

これまでの実績を発展させる形で、未来の青山学院を創造する新たな 10 年ヴィジョン「AOYAMA VISION 160（長期目標）」とその背景となる 30 年先を見据えた「超長期ヴィジョン～AOYAMA MIRAI VISION～」を 2024 年 11 月に発表します。「未来を拓く人」を育てる教育機関として、伝統を継承しつつ新たな教育・研究のステージを創造する青山学院のこれからの姿をお示しします。

本書では、「AOYAMA VISION」（2014-2024）の最終年度となる 2024 年度の取組を掲載しています。

## 「青山学院・新経営宣言」 ～Be the Difference～

2017年11月に発表した「青山学院・新経営宣言」は、少子化、学校間競争の激化、グローバル化といった学校を取り巻く環境の変化に対応するための経営戦略の基本フレームであり、経営発展モデル構想を示したものです。そして、「Be the Difference」は、「私たちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っています。」（新約聖書 ローマの信徒への手紙第12章6節）と「あなたがたは、それぞれ賜物を授かっているのですから」「その賜物を用いて互いに仕えなさい。」（新約聖書ペトロの手紙（一）第4章10節）とから導かれた経営スローガンです。

この経営スローガンは、「地の塩、世の光」というスクール・モットーとともに青山学院を支える価値観であり、学院に係わる一人ひとりの個性や各設置学校の独自性といった多様な価値を尊重し、幼稚園から大学院までを擁する総合学園として、時代と社会が求める世界に羽ばたくサーバント・リーダーの育成を目指すものです。

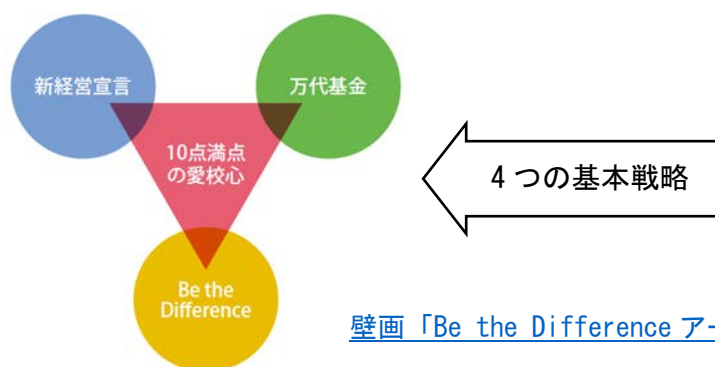
より良い教育・研究を実践していくには学院の財政基盤の安定が欠かせません。志ある若者の経済支援に心を砕いた万代順四郎<sup>まんだいじゅんしろう</sup>氏\*1の遺志を受け継いで、奨学金や質の高い教育・研究を行うための資金を充実させるため、万代順四郎氏の名前を冠した「万代基金\*2」を設立しました。本基金の目標金額は、1,000億円です。

この「万代基金」を支えるのは、校友、在校生、保護者等の青山学院に係わる全ての方の愛校心です。これらの方々から「10点満点の愛校心\*3」の評価を頂くに値する、魅力あふれる学院として、青山学院はこれからも成長・発展を続けます。

# Bethe Difference<sup>®</sup>

*Each of us can make the world a better place*

“世界は一人ひとりの力で変えられる”



[壁画「Be the Difference アート」はこちら](#)

- \*1) 青山学院高等科卒業。三井銀行取締役会長、帝国銀行取締役頭取などを務め、戦後はソニー株式会社創始期の取締役会長や日本経済団体連合会常任理事として活躍した。青山学院では理事長・校友会会長などを歴任。
- \*2) 万代基金の中に「万代奨学基金」と「万代基本基金」がある。青山学院発展のために、主に万代順四郎氏からいただいたご寄付をもとに発足した「万代奨学基金」の趣旨を発展させるとともに財政基盤の充実を図る目的で「万代基本基金」を新たに設定した。給付型奨学金の充実と教育・研究の質的向上を最重要課題としている。（II-1 参照）
- \*3) 青山学院に係わる方々へのブランドロイヤルティ（愛校心）調査の指標は、10点をもって満点としている。

## 「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」～青山学院 150 年への挑戦～

2017 年 11 月に発表した「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」は、2014 年に策定した AOYAMA VISION の「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園」というビジョンはそのままに、150 周年に向けて挑戦する学院の姿勢を示した「4 Challenges」の柱立てに再構成したものです。根底にあるグローバル化推進を継続しつつ、「世界の AGU」を目標に掲げる大学の計画を主軸に、ビジョン実現に向けた取組を実行しています。ビジョン策定から 5 年の節目を迎えた 2019 年には、「これまで」の実績の振り返りと、今後 5 年間とその先を見据えた「これから」の新たな挑戦や拡充していく取組を掲げ、各設置学校が目指す教育・研究、学校像を提示しました。期間終了まで目前となり、次の未来構想へ発展的につなげていくための取組が始まっています。

### Vision 2014-2024

## すべての人と社会のために 未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園

今、世界が必要としているのは、自分の使命を見出して進んで人と社会とに仕え、  
その生き方が導きとなる人、サーバント・リーダーです。

青山学院が育むサーバント・リーダーは、

リベラルアーツ・  
深い専門知識

他者を敬い  
違いを受け入れる心

人と社会に  
仕える行い

Sincerity  
Simplicity

を兼ね備えた人、すなわち「地の塩、世の光」を体現する人物です。

## AOYAMA VISION 実現の強い意志を「4 Challenges」に込めて

AOYAMA VISION は、150 周年への更なる飛躍を目指した「青山学院の挑戦」の表明です。

学院の基本使命である「教育」と「研究」、その成果を活かした「社会貢献」、快適かつ最先端の「知的空間の創出」。

これら 4 つを挑戦の柱に据え、「世界」に羽ばたくサーバント・リーダーを育成するべく、数々の Action を展開していきます。

世界と未来を拓く教育

世界をリードする研究

4

Challenges

世界が求める社会貢献

世界に誇る知的インフラ

### Mission

#### 建学の精神

青山学院の教育は、  
永久にキリスト教の信仰にもとづいて、  
行われる。

#### 教育方針

青山学院の教育は  
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、  
神の前に真実に生き  
真理を謙虚に追求し  
愛と奉仕の精神をもって  
すべての人と社会とに対する責任を  
進んで果たす人間の形成を目的とする。

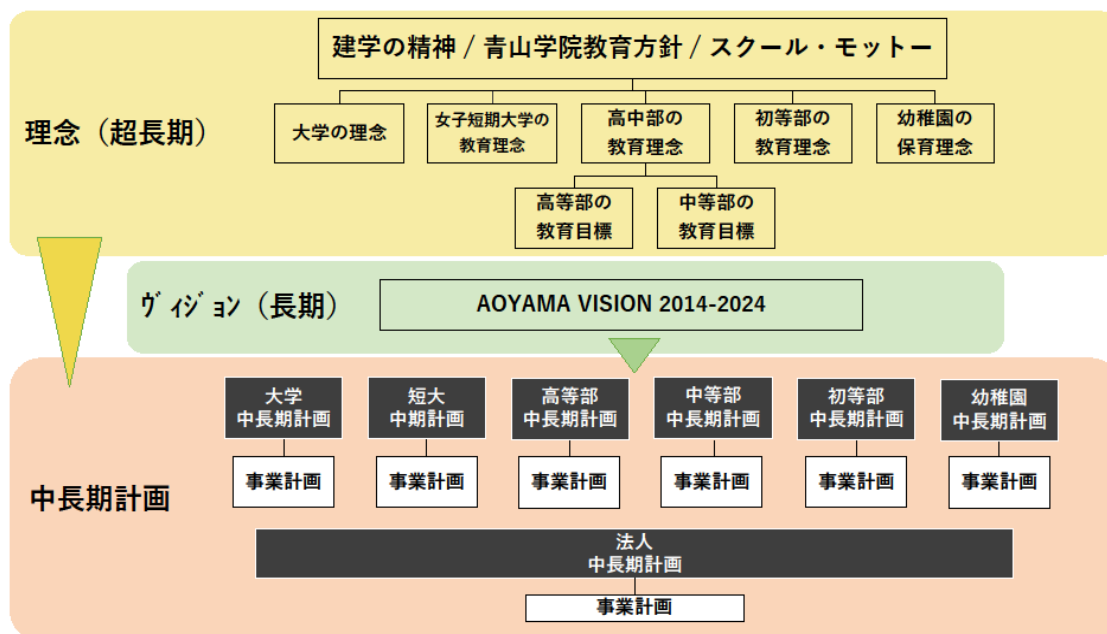
#### スクール・モットー

地の塩、世の光  
The Salt of the Earth, The Light of the World  
(聖書 マタイによる福音書 第5章13-16節より)

## 学校法人青山学院 中長期計画（2020-2024）

青山学院では、建学の精神に基づいて中長期計画を策定し、それに紐づく事業計画・実行計画を立てて遂行しています。各設置学校がそれぞれの教育理念・目標を活かしつつ、AOYAMA VISION によって学院全体で同じ方向性を持った計画を策定しており、オール青山の精神を体現しています。

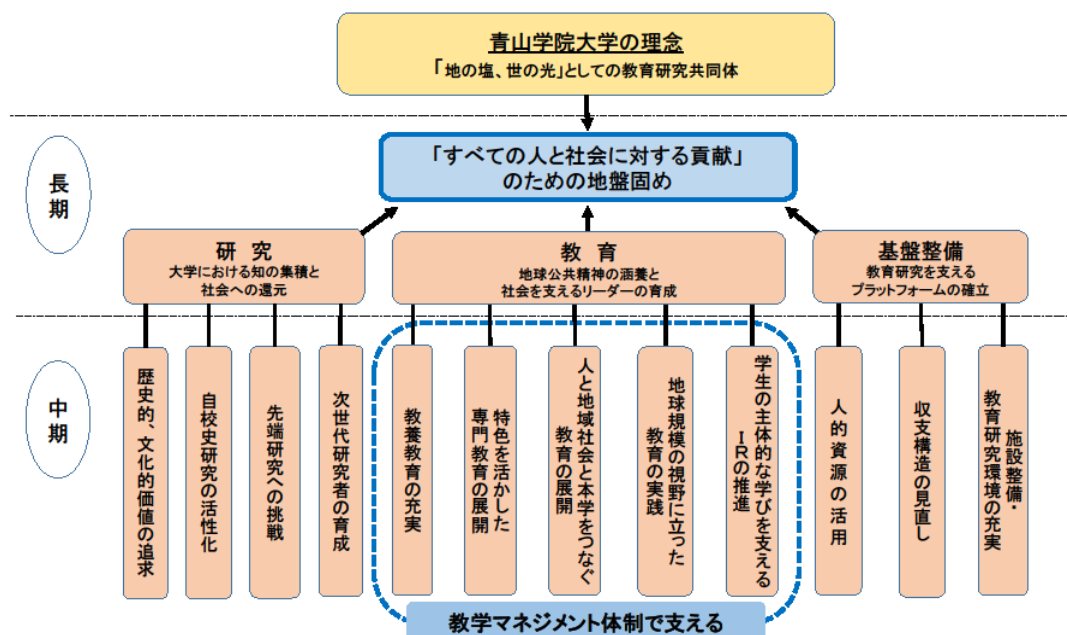
### 【青山学院中長期計画全体図】



※事業計画は、中長期計画を具体化した単年度の計画です。

※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までを対象とする。

### 【大学の中長期計画構成図】



## 各設置学校及び学院の事業計画

### I. 国際戦略発展のための AOYAMA VISION 「4 Challenges」 及び基盤整備

昨今の急速なグローバル化や激変する世界情勢の中にあっても、創立以来変わらぬ本学の建学の精神であるキリスト教信仰に基づく教育と国際教育を実践し、国際社会に貢献できる人間の育成を継続していくために、法人と各設置学校の代表で構成される全学国際戦略推進委員会を設置し、各設置学校の教育理念・目標を活かしつつ、学院全体としての国際戦略を策定し推進しています。

全学的な国際教育の一環として毎年開催している「Aoyama Gakuin Global Week」においては、国際社会における課題や異文化への理解を深めることを目的とした数々の取組を各設置学校で実施しています。また大学では、留学生と在校生の交流の場である「インターナショナルコモンズ」を、チャットルームや英語によるカウンセリングルームの機能も集約して、2024年度にリニューアルオープンします。これにより、国際交流の更なる活性化が期待されます。更に、外国人留学生の支援体制の整備や海外留学の発展を目指した奨学金制度の充実、SDGsを重点課題とする研究の支援を行っています。中等部では、オンライン英会話やオンライン多聴多読システムを導入し、英語教育の充実に取り組んでいます。初等部では、教員対象のグローバルセミナーを実施し意識を高めることで、初等部全体の国際化を推進しています。

青山学院はこれからも、教育・研究、様々な活動を通して、人に仕え、社会に貢献する国際的なサーバント・リーダーを育成していきます。

## 1. 世界と未来を拓く教育

大学			
中長期計画		事業計画	
長期	中期		
教育	人と地域社会と本学をつなぐ教育の展開	タイトル	地域・社会リエゾン機能の強化:相模原市との地域連携プロジェクト
		目的	相模原市との包括協定に基づき進めてきた連携実績を踏まえ、教育研究活動と地域連携を体系化し発展させていくことを目的とする。また、特に新たに設置する社会連携推進機構(2022年6月設置済)及び社会連携を推進するための事務部署である社会連携課の中核となる取組の立ち上げと推進を図る。
		2024年度目標	2023年度事業計画から引き続き、下記2点に取り組む。 ①地域連携プラットフォームを発展させ、私立大学等改革総合支援事業タイプ3(プラットフォーム型)の申請へとつなげる。 ②CAS (Community Activator with Sports)プロジェクトとして、相模原市(テーマにより渋谷区も加える)と連携し、本学体育会各部の協力も得て大学独自企画及び相模原市との共同開催企画実施を行い、地域における「信頼されるスポーツ指導者」育成事業のモデルケースを実践する。
		タイトル	シビックエンゲージメントセンターの開設と充実
		目的	本学の学生・教職員が、多様化する市民協働事業を通して、サーバント・リーダーとして成長することを目的としたセンターの開設及び充実を目指す。(2022年4月センター開設)
		2024年度目標	①ボランティア活動及び市民協働活動の強化 ②青山スタンダード科目(サービス・ラーニング3科目、フレッシュヤーズセミナー5科目、講義3科目、共催を含む)の実施 ③150周年を踏まえた学内外の連携強化(研究会の1回以上の実施) ④研究の推進 ⑤紀要の発行と充実
		タイトル	リカレント教育を推進する組織の設置と充実
		目的	リカレント教育への社会的要請の高まりに応えるため、本学におけるリカレント教育の企画・実施運営ならびにこれらに必要な調査研究・情報発信を担う常設の組織を社会連携推進機構内に設置し、その充実を目指す。
		2024年度目標	生涯学習プログラムにおける有料講座であるアカデミアと履修証明プログラムの充実化。特にアカデミアについて、体系的なプログラムとしての設計を目指す。
		タイトル	VRキャンパスの構築と新しいコミュニケーションの創成
目的	青山学院大学が擁する2キャンパスを一体化するようなコミュニケーションを生み出すことを目的として、ハイクオリティーVR空間と人間に近いアバターを用いたVRキャンパス(青山・相模原両キャンパス)を作成する。		
2024年度目標	①VRキャンパス・教室のデータ収集と制作 ②全学的プロジェクトチームによる活用方法・運営方法の提案 ③プラットフォームに必要な機能の洗い出し ④コンテンツ制作		



大学			
中長期計画		事業計画	
長期	中期		
教育	人と地域社会と本学をつなぐ教育の展開	タイトル	展覧会「アートから考えるアジアにおけるジェンダー問題」開催
		目的	青山学院大学のコミュニティが、SDGs目標の一つである「ジェンダー平等」をアートから考えることを目指して、2024年4月～5月に青山学院大学スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター・ギャラリーにて、様々な地域におけるジェンダーの問題に取り組むアート・コレクティブ(アート・グループ)の創作を展示する展覧会を開催する。
	2024年度目標	①展覧会の開催により、来場者がジェンダーの問題に対する気づきを得て、意識の変化がもたらされるようになる。 ②展覧会のガイドツアー、ワークショップ、トークイベント、上映会等関連イベントの開催により、上記の成果を高める。 ③展覧会及び関連イベントの報告をWebサイトで公開することにより、ジェンダーの問題に対する取組を広く知らしめる。	
	地球規模の視野に立った教育の実践	タイトル	学位取得型留学(ダブルディグリー等)給付奨学金の新設
		目的	現在、大学の中長期計画のマテリアリティにも挙げられているダブルディグリーの導入であるが、本学においては海外の協定大学の学位取得のために留学する学生に対する奨学金制度がなく、学生の負担が過重になっている。海外大学とのダブルディグリー、デュアルディグリー、ジョイントディグリーといったプログラムへの奨学金を新設することで、現在稼働している国際政治経済学部プログラムを安定化させ、全学に学位取得型留学の新設、活性化を促す。
		2024年度目標	国際政治経済学部プログラムを安定化させるために次の事項を行う。 ①現在派遣中の学生、これから派遣予定の学生の支援 ②継続的に応募者を出すための学内広報活動
高等部			
中長期計画		事業計画	
教育改善		タイトル	新カリキュラム策定を通して探究的な学びの推進に向けた高等部授業改革
		目的	2022年度にスタートする新カリキュラムの策定を通じ、高等部の教育プログラム全般の改革を図る。これまでの伝統的な授業から、「探究的な学び」をキーワードに、自ら考え、人と協働し、発信していく主体的な学びを起こす授業への転換を図り、青山学院の一貫教育をより有効に生かし得る高等部の教育を模索する。
		2024年度目標	事業計画最終年として、今回の新カリキュラムの見直しを図り、各教科の授業での実践を可能にするシステムづくりに取り組む。 ①各教科において「学力観」「評価観」を見直し、それを再び全体化する。 ②教員のファシリテーション研修を行い、授業に対する教員間の協働的な文化を醸成する。 ③「グラジュエーションポリシー」「カリキュラムポリシー」を策定し、それに基づいた「アドミッションポリシー」について検討する。 ④「観点別評価」「自由選択科目」のあり方を引き続き検討する。



高等部		
中長期計画	事業計画	
教育改善	タイトル	アメリカ・サーバント・リーダー研修プログラム in カリフォルニア準備
	目的	高等部には、現在イギリスとイタリアとの交換留学のほか、海外プログラムとして、カナダホームステイプログラム、フィリピン訪問プログラム、東ティモールスタディツアーがあるが、英語が堪能な生徒がアメリカの大学で英語でサーバント・リーダーについて学ぶ研修プログラムを新たに作り、より高度な学びを体験させ、グローバルに活躍できる生徒を育成する。
	2024年度目標	当研修プログラムの企画・立案、また現地プログラム下見を実施し、2025年度にプログラムの実施ができるよう体制を整える。
中等部		
中長期計画	事業計画	
教科教育の充実	タイトル	オンライン英会話の導入
	目的	生徒に、より多くの英語の発話機会を提供するため、オンライン英会話を導入する。生徒たちが、「英語」を勉強する対象からコミュニケーションの道具として使うもの、という認識に転換する機会を提供する。今回の導入により、英語を話すことへのハードルが下がり、普段の授業の活性化も期待される。
	2024年度目標	3年生を対象に、オンライン英会話を実施する。生徒は、フィリピン人講師による個人レッスンを年30回(1回25分)自宅で受講する。お祈りをするなど、キリスト教教育の要素を取り入れた形式で実施する。
	タイトル	オックスフォード・リーディング・クラブ(オンライン多聴多読システム)の導入
	目的	英語の多聴多読経験を1人1台所有しているPCを使って、学校内外を問わず、自分のレベルに合った好きな本をやさしいものから自由に読みながら音声も同時に聴くことが出来る環境を提供することで、英語を勉強ではなく、楽しむもの、また情報を得る手段として捉えてもらい、尚且つ、英語の読解力と聴解力を向上させることをねらいとする。
2024年度目標	「オックスフォード・リーディング・クラブ」を継続し、生徒が英語に親しみ、出来るだけ上のレベルに到達出来るよう取り組む。	
初等部		
中長期計画	事業計画	
グローバル教育の推進	タイトル	グローバルセミナーの実施による初等部の国際化
	目的	グローバルセミナーを通じ、海外の文化や教育に触れることで教諭の国際化への意識づけを行い、初等部の国際化の取組を推進する。
	2024年度目標	前期、後期において、一度ずつ初等部教諭、非常勤講師を対象にグローバルセミナーを開催する。これまで2回実施した内容から反省点や良かった点等を活かし、よりブラッシュアップしたものとする。

初等部		
中長期計画	事業計画	
その他	タイトル	初等部礼拝堂からステーキホルダーへの礼拝等映像配信の実施
	目的	コロナ禍で得たノウハウを活かし、礼拝を中心に映像配信を行う。不登校児や保護者に向けた配信を軸に、卒業生や外部に向けた配信も視野に入れることで、様々な効果も期待できる。
	2024年度目標	礼拝堂で現在行っている簡易配信用のハンディカメラ(三脚使用)を天吊り型にし、また床上や2階から1階へ剥き出しで引き回しているLANケーブルを電源コードと同じ配管内に収容し、更にマイクコンセントで配線をもぐらせることで座席を有効活用する。また、設置型の巡回カメラ等を整備し、クオリティを向上させることで、外部への配信にも耐えられるものとする。
幼稚園		
中長期計画	事業計画	
その他	タイトル	幼稚園蔵書絵本の更なる充実
	目的	全ての蔵書を確認し、必要な絵本・図鑑等は購入し、絵本コーナーの環境をより豊かに整える。
	2024年度目標	すでにある絵本と2023年度末に購入した絵本を合わせて、題名の「あいうえお」順で並べる。2024年9月には新園舎の絵本コーナーに収納し、保育に活用する環境を整える。
学院		
中長期計画	事業計画	
自校史教育の推進	青山学院の歴史は、人と社会に貢献し、弛まぬ奉仕を続けてきたサーバント・リーダーたちの歴史でもある。その歩みを振り返り、志を次世代に引き継ぐため、青山学院大学附置青山学院史研究所における自校史研究や年史編纂の取組の成果を、各設置学校における自校史教育の推進につなげる。	
学校間連携の強化	幼稚園から大学・大学院までを擁する本学院の特性を活かして、支援先の子どもたちと交流する「フィリピン訪問プログラム」に代表される設置学校を横断した全学的な教育活動や、高大連携をはじめとする設置学校間の取組等を一層強化し、発展させる。更に、卒業後も生涯にわたっていつでも青山学院で学ぶことができる社会人向け教育プログラムを充実させ、これらを包括した「青山学院の人生一貫教育」を実現する。	
校友と学院・在校生による連携強化	校友による在校生へのキャリア教育や就職活動支援、学校行事や課外活動のサポート等、各設置学校における教育活動の様々な場面において、本学院を支える存在として校友が活躍している。また、全学的イベント「Aoyama Gakuin Global Week」への校友会の参加、学院から校友に向けた広報紙やメールマガジンによる情報発信の充実等、校友と母校をつなぐ施策も展開している。今後も校友との連携を一層強化し、「オール青山」の絆の結束力をもって、学院の更なる飛躍を目指す。	
グローバルなサーバント・リーダーの育成	学院の国際戦略強化を目的として設置された全学国際戦略推進委員会において、国際化への具体的な取組プロジェクトを吟味し、グローバルな視点でサーバント・リーダーを育成する教育・研究プログラムを学院全体で推進していく。また、大学における協定校の拡充(アフリカ大陸の協定校開拓による地域の多様化、協定内容の拡充強化等)をはじめ、中等部のコミュニケーションスキルとしての英語力向上を目指す新しいプログラムの実施等、各校においてグローバル化の取組を展開し、グローバルなサーバント・リーダー育成を目指す。	

## 2. 世界をリードする研究

大学			
中長期計画		事業計画	
長期	中期		
研究	自校史研究の活性化	タイトル	自校史研究の活性化(『青山学院一五〇年史』編纂)
		目的	自校史に関する研究機能を強化するため、大学に学院史研究所を設置する。また、同研究所において、これまで青山学院が果たしてきた歴史的役割に関する調査・研究を行い、その成果を発信すること、そして設置学校での授業等に活用することで、本学におけるブランド力の向上および校友の帰属意識の涵養を目指す。
		2024年度目標	1.青山学院史研究所の主な任務として、『青山学院一五〇年史』編纂事業を展開する。年史編纂事業としては、以下の2点を到達目標とする。 ①『青山学院一五〇年史』通史編Ⅱの刊行 ②『写真に見る青山学院150年』の刊行 2.「青山学院大学の歴史」等の授業実施・支援を行う。 3.青山学院ミュージアム開設準備の支援
		タイトル	本学のSDGs(国連が採択した「持続可能な開発目標」)に対する研究強化への取組
先端研究への挑戦		目的	SDGsと関連する研究を支援することにより、本学の研究面でのレベルを向上させ、教育に還元することにも努め、SDGsに取り組む「世界のAGU」としての認知度を高めていく。
		2024年度目標	①大学WebサイトにSDGs関連研究課題を整理して公開する。 ②総合研究所、大学の刊行物にSDGs関連記事を掲載する。
		タイトル	ジェロントロジーの学際研究及び教育・啓発事業
		目的	ジェロントロジー研究所でこれまで行ってきた高齢者に関わる諸問題を解決する学際研究・国際共同研究を更に発展させるとともに、ジェロントロジーの教育事業、社会啓発事業を行う。これらの取組を通じて、本学のジェロントロジー分野での存在感が高まること、ジェロントロジーに通じる若いサーバント・リーダーの育成につながることを期待される。
		2024年度目標	①教育事業として、青山スタンダード科目「ジェロントロジーと諸科学」を開講し、15回の授業を実施する。 ②研究事業として、プロジェクトメンバーによるジェロントロジー研究及び研究連携を促進し、成果発表等を50件以上行う。 ③広報事業として、活動成果を公開する。
		タイトル	青山学院大学独自の超小型衛星開発拠点の創出
目的	青山学院大学独自の超小型衛星開発の拠点を設置することを目的とし、総合プロジェクト研究所に外部資金プロジェクト研究所を設置する。衛星開発の様子を積極的に外部へ配信することにより、本プロジェクトが学内だけでなく学外にも広く認知される事が期待される。宇宙開発を通して、宇宙のフロンティアを開拓するという社会的要請に応えることで、世界における本学のプレゼンス向上を図る。		
2024年度目標	JAXAへARICA-2衛星の引き渡しを完了する。		

### 3. 世界が求める社会貢献

サービス・ラーニングや社会人教育、地域連携等、本学における教育・研究の取組の多くは、社会貢献につながっています。その中でも、特に社会貢献に大きく関わる事業計画について、本書では以下のページに掲載していますのでご覧ください。

P.6 「シビックエンゲージメントセンターの開設と充実」 (大学)

P.6 「リカレント教育を推進する組織の設置と充実」 (大学)

#### 【各設置学校におけるサービス・ラーニングに係る取組例】

学院	●幼稚園から大学まで各教育課程を横断するフィリピン訪問プログラム
大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本赤十字社とのボランティア・パートナーシップ協定に基づく活動</li> <li>●地方自治体との各種協定に基づくボランティア活動、地域振興支援</li> <li>●シビックエンゲージメントセンターによる各種活動（渋谷区におけるこどもテーブル拠点事業、フィリピン・カンボジア等における国際協力、東北地方・熊本県における復興支援活動、ボラサポ制度の運用）及びサービス・ラーニングに関する科目への支援</li> <li>●サークル、ゼミ単位での国内外における各種貢献活動</li> <li>●青山スタンダード科目「サービス・ラーニングⅠ・Ⅱ・Ⅲ」「サービス・ラーニングとしてのボランティア活動」、「ボランティア・市民協働論」</li> </ul>
高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東日本大震災の被災地の学校との交流</li> <li>●横浜寿町での炊き出し等支援</li> <li>●東ティモール・スタディ・ツアー（ケーススタディと現地調査）</li> <li>●知的障がい支援施設「えびす青年教室」への訪問、交流</li> <li>●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援</li> </ul>
中等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>●養護老人ホームでの奉仕活動</li> <li>●戦争・自然災害被災者支援募金活動</li> <li>●日本聾話学校との相互交流</li> <li>●日本キリスト教海外医療協力会（JOCs）の支援（使用済み切手の回収）</li> <li>●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援</li> </ul>
初等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>●滋賀県にある止揚学園への短期留学</li> <li>●社会福祉法人鎌倉薫風学園ラファエル会・日本聾話学校への訪問</li> <li>●日本キリスト教海外医療協力会支援プログラム（使用済み切手の回収）</li> <li>●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援</li> </ul>
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉法人愛の泉 愛泉乳児園への支援活動</li> <li>●日本キリスト教海外医療協力会支援プログラム（使用済み切手の回収）</li> <li>●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援</li> </ul>

#### 4. 世界に誇る知的インフラ及び基盤整備

大学			
中長期計画		事業計画	
長期	中期		
基盤整備	人的資源の活用	タイトル	職員対象SD(Staff Development)の実施
		目的	「青山学院の求める人材像」に基づき、自らの役割を果たしてその成果を大学に還元できる職員を育成するために、SDを通して社会や組織への貢献度の高い業務や企画等に主体的に取り組む組織の文化や風土を醸成する。業務の効率化を図り余力を生むことで職員の主体性と創造力を育み、組織文化醸成の基盤づくりを目的としたテーマで研修等を実施する。
		2024年度目標	社会や組織への貢献度の高い業務や企画に主体的に取り組む組織文化醸成の基盤となるSD研修を1件以上実施する。
	施設整備・教育研究環境の充実	タイトル	新図書館棟の機能・学習空間の充実
		目的	利用者の学習・研究・教育支援を総合的に実現することを目標とし、「学生本位の図書館」という視点に基づく学習空間や支援の提供、本学の教育研究基盤を支える学術資源の拡充、研究活動に資する環境の整備等を具現化するための実行案を作成する。
		2024年度目標	①ICT設備の拡充 ②新規利用者サービスの導入
幼稚園			
中長期計画		事業計画	
自然界の循環を感じる園舎建設・園庭づくり	タイトル	キャンパス再開発 幼稚園新園舎建築	
	目的	キャンパス再開発の計画の中で新園舎を建築し、本園の保育の特徴を活かし、保育のねらいが達成できる、より豊かな環境を整える。	
	2024年度目標	2023年度に引き続き、新園舎建設工事を実施する。園舎完成後は新園庭を整備し、保育の環境を整える。	
法人：人事に関する計画			
中長期計画		事業計画	
サーバント・リーダーとしての職員の育成	タイトル	AOYAMA VISIONの遂行に基づき、学院の個性を発揮することのできるサーバント・リーダーたる職員の育成	
	目的	本学院で学んだ学生等がサーバント・リーダーとして社会で活躍できるように、まず職員自らがサーバント・リーダーとなれるよう育成する。加えて学校職員として、自ら成長し、学院の発展に寄与していけるような人材を、人事部能力開発支援課が実施する研修プログラムを通して育成する。	
	2024年度目標	AOYAMA VISIONの遂行に基づき、青山学院の発展に寄与できる人材を育成するため「職員のサーバント・リーダー育成研修プログラム」を両キャンパスにおいて実施する。これを土台として学校運営を担う職員に求められる知識やスキルを身につけることを目的とし、併せて、大学SDの取組にも対応した研修である「職員の能力向上プログラム」も実施する。また、内製による対象別の研修として「新任職員研修」「メンター・メンティ研修」や「考課者研修」「階層別研修」を実施する。	

法人：施設に関する計画		
中長期計画	事業計画	
キャンパス再開発計画	タイトル	青山学院ミュージアムの開設
	目的	1874年の学院創立以来の様々な歴史を踏まえ、学院が収集・保存する歴史資料の展示を通じて、近代日本におけるキリスト教文化の受容とその歴史的な役割を明らかにし、学院が設置する諸学校の教育に資すると共に、所蔵資料や研究成果を広く公開して、現代社会の文化的発展に寄与することを目的とする。
	2024年度目標	展示の実施設計に基づき、間島記念館の内装改修工事及び展示製作を行い、2025年5月の青山学院ミュージアム開設に向けたハード面での準備を完了する。
大規模天井改修計画	タイトル	大規模天井落下防止対策
	目的	震災に於いて大規模天井の落下等で甚大な被害が発生したことを起因に、2014年4月に吊天井に対する建築基準法の改正があり、文部科学省から落下防止対策を施すよう通達が出された。これを受けて、本学においても安心・安全を確保するため、学院内の建物に於いて対象となる建物について天井等の改修を順次計画する。
	2024年度目標	2015年度から10年目となり、2024年度は2件の天井改修工事（短大体育館プレイルーム、相模原キャンパスH棟）を計画する。



## Ⅱ. 新経営宣言の実現

### 1. 万代基金の増強による財政基盤の充実・整備

法人		
中長期計画	事業計画	
財源確保	タイトル	「万代基金」構想の周知と寄付金大幅増額の実現
	目的	「万代基金」の大幅増額により、「フィナンシャル・エイドの充実」、「教育研究資金の充実」、「財政基盤強化(万代基本基金)」を推進する。
	2024年度目標	「万代基金」の周知と寄付金獲得に向けて、万代基金委員会を運営しながら各種広報・募集活動を実施する。(継続)

## Ⅲ. その他の事業計画

法人		
中長期計画	事業計画	
その他	タイトル	学院創立150周年記念事業の計画策定及び実施
	目的	2024年に学院創立150周年を迎えるにあたり、式典その他の記念事業について、計画を策定し、実施する。
	2024年度目標	①委員会を開催し、150周年事業に係る事項(企画、予算等)について審議・決定し、実施する。 ②2024年度内に実施予定の企画について、担当部署への予算措置を実施する。 ③記念式典・祝賀会プロジェクトとして、その企画・運営を実施する。
	タイトル	青山学院未来構想の策定
	目的	2024年に迎える学院創立150周年を機に、キリスト教信仰に基づく建学の精神を礎とした新たな青山学院の未来構想を掲げ、学院の更なる飛躍を目指す。未来構想は、数十年の期間で青山学院の未来像・方向性を示す「超長期ヴィジョン」と、超長期ヴィジョンを背景とする160周年までの10年間の「長期目標(AOYAMA VISION 160)」、長期目標達成のための前・後期各5年の「中期計画」の3層構造を想定しており、2021年度に構築した体制・ロードマップに基づき、順に策定していく。
	2024年度目標	「長期目標(AOYAMA VISION 160)」「中期計画」を確定し、学院創立150周年を迎える11月に青山学院未来構想を学内外に公表する。
	タイトル	学院創立150周年と宗教センター移転に伴ってのキャンパス・ミニストリーの刷新
	目的	学院創立150周年記念事業の実施とともに、キャンパス・ミニストリーの充実や新しい展開を通して、園児・児童・生徒・学生・教職員・保護者・校友に、本学院の存立の原点と意義を伝え、さらに次世代に向けたキャンパス・ミニストリー・モデルを構築する。
2024年度目標	①変化する社会状況や教育環境、学生や生徒らの変容に適応したキリスト教活動の在り方を検証し、新たな展開の道筋をつける。 ②移転に伴う宗教センター活動のスムーズな移行と体制強化 ③創立150周年記念行事(宗教センター担当)の円滑な実施 ④内外へのキリスト教文化の発信と、学内外諸部署・諸機関との協力連携の強化	



〈補足事項〉 P.6 から P.14 の表記について

1. 【学院】【法人】

法人執行部及び本部事務部署が行う事業計画については、「教育・研究・学術」に関わる計画を【学院】、「経営・管理」に関わる計画を【法人】と表記しています。

2. 【大学】

大学を構成する各部署・附置機関、大学院、専門職大学院が行う事業計画については、全て【大学】と表記しています。

地の塩、世の光

*The Salt of the Earth, The Light of the World*

【青山学院スクール・モットー】

学校法人 青山学院 2024 年度事業計画書

2024 年 3 月 21 日 理事会承認 (2024 年 4 月発行)

---

学校法人 青山学院 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

〈問い合わせ先〉 総合企画部 Tel.03-3409-6384

〈学院ウェブサイト〉 <https://www.aoyamagakuin.jp/>